



平成 19 年 8 月 9 日

各 位

株式会社アルプス技研
IR・広報室

平成 19 年 12 月期中間期業績の概況及び平成 19 年 12 月期通期の業績・配当予想について

株式会社アルプス技研の平成 19 年 12 月期中間期(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日まで)業績の概況及び平成 19 年 12 月期通期の業績・配当予想につきまして下記ご説明申し上げます。

【Ⅰ】中間連結業績

(1) 連結業績の主要数値(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 中 間 期	[前 中 間 期 比]
売 上 高	111億2,200万円	[6億8,000万円増、6.5%増]
営 業 利 益	8億1,100万円	[3億2,900万円増、68.3%増]
経 常 利 益	8億1,900万円	[3億4,900万円増、74.3%増]
中 間 純 利 益	5億5,000万円	[4億7,600万円増、644.1%増]

当中間期は連結各社の売上高が総じて順調に増加した結果、当社グループの連結売上高は前期比6.5%増の111億2,200万円となりました。特に、台湾で製造設備ラインの据付工事を行っている子会社の売上高が大口受注により前期比3.7倍の売上を計上したことが伸びを押し上げました。

損益面では、アルプス技研本体での営業利益率の向上に加え、業務系ソフト子会社の損益の大幅改善ならびに台湾子会社の増益などにより、営業利益、経常利益とも大幅な増益となりました。中間純利益では、これに加え、前期計上の減損損失1億9,300万円の消失や連結会計上の税効果による法人税等の負担率の減少などにより、前期比7.4倍の5億5,000万円と営業利益、経常利益とともに連結中間期決算史上最高益を上げることができました。

(2) 事業のセグメント別売上(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 中 間 期	[前 中 間 期 比]
アウトソーシングサービス事業	108億1,300万円	[7億3,100万円増、7.3%増]
そ の 他 事 業	3億800万円	[5,100万円減、14.2%減]

技術者派遣を主体とする「アウトソーシングサービス事業」は前述のとおり各社の増収によって、売上高は108億1,300万円(前期比7億3,100万円増、7.3%増)となり、連結総売上高に占める「アウトソーシングサービス事業」売上高は前中間期の96.5%から97.2%になりました。

「その他事業」の減収はアルプス技研のモノづくり事業の受注減によるものです。

【Ⅱ】中間個別(アルプス技研)業績

(1) 個別(アルプス技研)業績の主要数値(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 中 間 期	[前 中 間 期 比]
売 上 高	91億300万円	[2億2,200万円増、2.5%増]
営 業 利 益	7億200万円	[1億9,300万円増、38.1%増]
経 常 利 益	7億5,200万円	[1億9,200万円増、34.4%増]
中 間 純 利 益	4億5,000万円	[2億4,600万円増、121.1%増]

(2) 個別(アルプス技研)事業のセグメント別売上(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 中 間 期	[前 中 間 期 比]
アウトソーシングサービス事業	89億3,200万円	[2億9,200万円増、3.4%増]
そ の 他 事 業	1億7,100万円	[6,900万円減、29.0%減]

当中間期のアルプス技研の売上高は91億300万円(前期比2億2,200万円増、2.5%増)でした。

事業のセグメント別売上高は、技術者派遣を主体とした「アウトソーシングサービス事業」売上が暦日稼働日数減というマイナス要因を抱えつつも前期比3.4%増となり、個別総売上高の98.1%(前期97.3%)を占めるに至りました。モノづくりである「その他事業」の売上は前期比29.0%減でありました。

利益面では当社「第8次5ヵ年計画」(平成15年策定)に基づいた「企業価値向上」(人間価値、社会価値、事業価値)戦略の実践が着実に結実した結果、大きなプラス影響を生じました。具体的には、技術者のキャリアアップをベースとした資源の再配分や事業の集中と選択等によって、売上高総利益率が中間期決算で初めて27%台となりました。その結果募集費などによる販管費の増加を吸収し、営業利益、経常利益、中間純利益ともに個別中間期決算史上最高益となりました。

(3) 売上上位100社による主要業種別売上高構成(総売上高の79.0%)

(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 中 間 期	前中間期比	売上高構成比	
			当中間期	前中間期
自動車(含むナビ・オーディオ)	21億6,300万円	2.0%増	30.1%	30.1%
家電	8億7,200万円	2.5%増	12.1%	12.1%
半導体	8億7,700万円	80.2%増	12.2%	6.9%
精密機器	18億3,600万円	1.0%減	25.5%	26.3%
通信	2億5,100万円	11.0%増	3.5%	3.2%
その他(携帯電話、ソフト開発等)	11億9,300万円	20.5%減	16.6%	21.4%
100社合計	71億9,300万円	2.2%増	100.0%	100.0%

売上高上位100社による業種別では、自動車、家電業界向けは依然堅調に売上が伸びておりますが、当中間期の特徴は半導体設計向け売上の増加(前期比80.2%増)にあります。これはデジタル家電やデジタルカメラの新製品開発競争が背景に上げられます。なお精密機器向け売上がマイナス成長となっておりますが、カメラメーカー向けは前期比78.5%増加しております。

(4) 派遣稼働率、派遣稼働時間、派遣単価

	全派遣技術者平均		除く新卒派遣技術者	
	当中間期	前中間期	当中間期	前中間期
稼働率	93.5%	94.0%	95.9%	97.5%
稼働時間	178.3H/月	181.1H/月	179.0H/月	181.8H/月
単 価	3,607円/H	3,449円/H	3,619円/H	3,460円/H

当中間期の派遣稼働率が前期を下回った理由は、暦日稼働日数減による稼働時間減に起因しています。

稼働時間減という環境にあって、単価は前期比4.6%増の3,607円となりました。

【Ⅲ】平成19年12月期通期業績予想並びに配当予想について

平成19年12月期通期業績につきましては当社を取巻く環境に大きな変化は見られないとの前提のもと、当中間期の実績動向を勘案して下記のとおりと予想いたします。

(なお実際の業績等は諸般の情勢変化等により本予想と異なる場合があります。)

(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	連 結		個 別(アルプス技研)	
	通 期 予 想	[前 期 比]	通 期 予 想	[前 期 比]
売 上 高	230億円	14億800万円増、6.5%増	190億3,000万円	8億2,100万円増、4.5%増
営 業 利 益	20億円	4億1,300万円増、26.0%増	18億1,000万円	3億500万円増、20.3%増
経 常 利 益	20億2,000万円	5億3,200万円増、35.8%増	18億8,000万円	3億1,000万円増、19.7%増
当 期 純 利 益	12億5,000万円	8億4,200万円増、206.4%増	10億8,000万円	6億4,700万円増、149.4%増

また上記12月期通期業績予想に基づき、配当金は連結業績連動で配当性向50%ルールに則り、中間配当金は1株当たり15円00銭とさせていただき、期末配当金1株当たり41円00銭、年間配当金1株当たり56円00銭と予想いたします。

以上